



令和4年度

横浜市立生麦小学校

# 学校だより

横浜市鶴見区生麦4-15-1 学校長 小倉 孝行  
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>



2月(如月)

## 大人が子どもにできること

校長 小倉 孝行

1月20日(金)、3年ぶりに3・4年生がペア活動でスケート教室に行きました。4年生は3年生が困っている場面で手を差し伸べ、3年生も自分たちでできることはしっかりやっていました。子どもたちの姿を見ながら、来年度、3年生は新4年生になりこれまで先輩たちから優しく教えてもらったように、新3年生(現2年生)に接してくれるのだろうと想像しました。翌週の朝会で、スケート教室だけではありませんが昨年度まで感染症対策として行事等が中止となり、子どもたちにつらい思いをさせてしまったことを話しました。朝会直後、何人かの児童が笑顔で「おはようございます」と、わざわざ言いに来てくれました。その優しさに胸が痛くなり、改めて子どもたちのために最大限できる取組を継続しようと感じました。

私はこの時期になると、自分が受験した頃を思い出します。ラジオの深夜放送を聞きながら問題を解くも、結局ラジオの内容しか覚えていなかった高校時代。どうにか受験が終わった2月下旬、父が運転するトラックに私も一緒に乗っていたとき「八百屋(家業)は継がなくていい。自分のやりたいことをしろ。」と、ハンドルを握り前を向いている父に言われたことを覚えています。自分の夢を追いかけてよいのか、それとも家業を継ぐべきなのか悩んでいた私を察してくれたのだと思います。そして30年近くが経ち、父と熱燗を飲んでいた同じ2月の夜「これまで、ありがとう。」とだけ言われました。それから数か月後、父は高齢のために店をたたみました。父から言われ、心に残っている言葉はこの2つです。そのときの父の表情や静かな雰囲気をよく覚えています。あえて多くの言葉で伝えなかったのだろうという気持ちを、この歳になり少し感じられるようになりました。

家族にはその数だけ家族のかたちがあります。ただ、子どもに幸せになってもらいたいという気持ちはみな同じです。そして、生麦小学校の子どもたちに関わる全ての大人(保護者の皆様、地域の皆様、教職員)も同じ気持ちです。成長過程にある子どもたちに、大人の気持ちを感じさせることは難しいかもしれませんが、子どもたちがもう少し大きくなったとき、あの時の言葉、あの時の出来事に自分は支えられ、守られてきたと気がつくのではないかと思います。そして、多少つらいことがあったとしても、希望をもってこれからも生きてくれると信じています。

6年生は卒業まで登校32日となりました。1年から5年生は登校35日で修了式です。4月になれば桜が咲き、子どもたちは新たな場所で、どのような状況であったとしても、また頑張ってくれるでしょう。振り返れば子どもと一緒にいられる時間は長くはないように感じます。卒業・進級前のこの2月。子どもへの、いつの日かの贈り物として、お子さんとゆっくりお話しされるのもいいのかもしれません。すべては未来を拓く子どもたちのために。

### ○ 卒業式の参列について

本年度の卒業式ですが、感染症対策を徹底した中で保護者の参列は各家庭2名までとさせていただきます。来賓につきましては地域の皆様の代表といたしまして町会長・町内会長・自治会長の皆様、PTA会長にご臨席いただきたいと思います。ご理解いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。なお詳細につきましては改めてご案内いたします。



### ○ 「なまいちじゃんカルタ」を頂きました

生麦第一地区社会福祉協議会(会長 飯田正二様)の皆様が、子どもたちがコロナ禍でもできる取組として、生麦に愛着をもってもらえるよう地域の見所を盛り込んだ「なまいちじゃんカルタ」を2年間かけて作成されました。子どもたちも札の絵や言葉を応募し、この度完成したカルタ12セットを寄贈いただきました。早速、クラスでカルタを実施したところ白熱した試合となり、自分たちが暮らす生麦の良さを感じていました。



クラスでカルタをしている様子です

### ○ ご協力いつもありがとうございます

3、4年生の保護者ボランティアの皆様にはスケート教室で児童の見守り、学援隊、校外委員の皆様には登校時の見守り、まごころ隊の皆様には調理実習、ミシン実習の補助をしていただきました。いつもありがとうございます。